

施策評価シート

幹事部局

環境生活部

施策の名称	VI-2-(2) 文化芸術の振興
施策の目的	広く県民が文化・芸術を鑑賞し、参加し、創造しながら、生き生きと心豊かに暮らせる地域をつくります。
施策の現状 に対する評価	<p>(創造的な文化芸術活動の拡大、文化芸術活動を担う人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民文化祭の参加者数は全体としては減少したが、文化芸術次世代育成支援事業、総合美術展はH30年度より増加している。一方で、参加者の広がりや若者の参加の拡大が課題となっている。 ・ 青少年の文化活動の推進については、生徒数が減少傾向にある中、高校生の文化部活動参加率は、30%と横ばい傾向を維持している。 <p>(県立文化施設の活用と機能の充実、文化施設の連携強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県立文化施設の入館者数は、県立美術館、芸術文化センターにおいて目標を上回ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、総数では、H30年度より139千人(11.6%)の減少となったが、前々年度と同じ水準は保っている。 ・ 県立美術館では、開館20周年の記念展覧会を開催するなどにより、目標を3万人近く上回る来館者数を得た。また、外国人入館者も平成28年度に初めて千人を超えて以降、2千人までのところで推移している。 ・ 県民会館、芸術文化センターいわみ芸術劇場においては、県民ニーズに対応したコンサートや芸術性の高い公演、演劇、落語など幅広いジャンルの公演を実施し県民の文化事業への参加の機会を確保した。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、県立文化施設や青少年の文化活動において、各種イベントや発表会等が中止となり、施設の感染症対策や新しい発表の方法の検討が求められている。 <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広い層に関心を持ってもらうため、県民文化祭を構成する各事業の公募チラシのデザインを工夫した。
今後の取組 の方向性	<p>(創造的な文化芸術活動の拡大、文化芸術活動を担う人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県民文化祭への参加については、若年層の取り込み、新規参加団体の掘り起こし等に努め、幅広い県民が参加できるような取組みを各文化芸術団体等との連携により進めていく。 ・ 青少年の文化活動推進については、学校・地域・文化芸術団体等と連携して、児童・生徒に多様な文化芸術に触れる機会等を充実させ、文化活動への意欲・関心を高めていく。また、高校生の文化活動活性化のための効果的な支援方法について検討する。 <p>(県立文化施設の活用と機能の充実、文化施設の連携強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県立美術館では、貴重な収蔵品などを活用し、親子向けの企画や展示関連のイベントなどを充実させ、PRの強化などにより、県内外からの集客につなげていく。石見美術館では、ファッション等、特色あるコレクションを活用した企画、複合施設の特性を生かしたイベントの開催や情報発信の工夫などにより、首都圏からの集客増にもつなげていく。 ・ 県民会館、いわみ芸術劇場は、館内でのホールイベントやワークショップの充実を図るとともに、公立文化施設・教育施設を活用したアウトリーチ活動(関係団体等と連携したイベント等の実施)を積極的に展開し、県民の文化芸術事業への参加を促進していく。 ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、施設利用をするにあたり必要な感染防止対策や収束後の利用環境を整えるための施設や設備の整備に取り組む。

事務事業の一覧

施策の名称		VI-2-(2) 文化芸術の振興				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どのような状態を目指すのか			
1	創造的な文化活動推進事業	文化活動を行う県民	自主的な文化活動の促進と活動水準を向上する	17,831	22,754	文化国際課
2	文化を担う人材育成・顕彰・奨励事業	文化芸術活動を行う県民	県民の文化芸術活動を助長し、文化の振興と地域の活性化、また、文化を継承していく次世代育成を図るため、これらの活動を公に顕彰することで、県民の励みとする。	158	175	文化国際課
3	芸術・文化の情報発信・収集事業	市町村、文化団体、文化施設、県民等	文化団体の財政基盤や情報基盤を強化するとともに、県民に文化情報を提供し、県内の芸術文化事業の育成を図る	10,558	10,139	文化国際課
4	県立美術館事業	県民及び来館者	美術に対する県民の興味や関心が高まる地域の文化交流や観光の拠点として賑わいを創出する	409,039	413,277	文化国際課
5	芸術文化センター事業	県民及び来館者	文化芸術に対する県民の関心が高まる地域の交流や文化芸術を中心とした賑わいの拠点となる	419,582	490,884	文化国際課
6	島根県民会館事業	県民及び文化芸術団体など	幅広い文化芸術活動と優れた文化芸術鑑賞の機会が得られる	248,745	263,660	文化国際課
7	青少年文化活動推進事業	児童・生徒	「豊かな心」を育むとともに、次代の文化活動の担い手を育成する。	8,777	8,818	社会教育課
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課 文化国際課

事務事業の名称		創造的な文化活動推進事業			
目的	誰(何)を対象として	文化活動を行う県民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういった状態を目指すのか	自主的な文化活動の促進と活動水準を向上する		17,831	22,754
			うち一般財源 (千円)	9,231	7,554
今年度の取組内容		県民文化祭の開催や次世代育成支援等、県民が企画段階から参加し創り上げる島根の芸術文化の事業を行う。			
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと					
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県民文化祭参加者数【当該年度4月～3月】	目標値		34,000.0	34,000.0	34,000.0	34,000.0	34,000.0	人	単年度値
		実績値	32,620.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		【各県民文化祭主催事業参加者数】 <ul style="list-style-type: none"> ①文化芸術次世代育成支援事業 6,727 (単位:人) ②県総合美術展(県展)開催 8,418 ③特別参加展(硬筆アート展)開催 509 ④文芸作品募集及び『島根文芸』発行 954 ⑤しまね文芸フェスタ開催 333 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	「島根県文化芸術振興条例」の制定を踏まえて、文化芸術の裾野の拡大、次世代育成に主眼をおき、県民文化祭への若者の参加拡大や文化芸術の担い手の育成などの取り組みを推進している。平成24年度から開始した文化芸術団体が学校などに向けて実技指導・合同公演を行う文化芸術次世代育成支援事業は、各実施団体と連携して多くの学校の参加につながっている。平成24年度の開始時には12ヶ所、2,515名の参加だったところから、令和元年度には53ヶ所、4,587名(ほか観客等2,140名)の参加となっている。学校にも事業が浸透し、活動として定着してきている。
課題分析	①課題	<ul style="list-style-type: none"> ・主催事業(文化芸術次世代育成支援事業を除く)については、参加者が固定化・高齢化の傾向にある。 ・共催対象となる事業の固定化が見られ、新たな取組みが少ない状況となっている。 ・文化芸術次世代育成支援事業について、県内文化団体の参加や学校からの実施希望は年々増えているが、国からの助成金の額により事業規模が左右され、石見や隠岐地域での実施増が図りにくい状況にある。
	②原因	<ul style="list-style-type: none"> ・主催事業について、県展、文芸作品公募への小中高校生の参加が少ない。 ・県民文化祭の知名度が低く、共催事業になることのメリット感があまりない。 ・文化芸術次世代育成支援事業への助成を受けている国の補助事業の採択件数・採択額が近年低くなっており、採択されない場合もある。
	③方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・県民文化祭については、幅広い県民が参加できる開かれた文化祭にすることを目指し、各事業間の連携を図り、積極的なPRに努める。 ・主催事業については、小・中・高校生等、広く若者を取り込んだ文化祭とすることにより、担い手の育成に努め、文化活動の裾野の拡大を図る。また、共催事業については、市町村文化協会等への参加の働きかけ等を行うと共に、文化ファンドとの情報共有等を活用して新規参加団体の掘り起こしを図る。 ・文化芸術次世代育成支援事業については、事業内容の見直しや国庫補助などの活用により事業費の確保に努め、県内各地域において事業が実施できるよう努める。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課 文化国際課

事務事業の名称		文化を担う人材育成・顕彰・奨励事業			
目的	誰(何)を対象として	文化芸術活動を行う県民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういった状態を目指すのか	県民の文化芸術活動を助長し、文化の振興と地域の活性化、また、文化を継承していく次世代育成を図るため、これらの活動を公に顕彰することで、県民の励みとする。		158	175
			うち一般財源 (千円)	158	175
今年度の取組内容	本県の文化の発展に貢献することが期待され、活動を奨励するにふさわしいものに奨励賞を贈り、これを顕彰する。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	推薦件数が減少していることから、新聞・情報誌・TVなどからも情報収集に努め、文化団体や若手人材等の活動を把握するとともに、県の広報媒体等も活用して受賞者・団体の活動を紹介するなど、賞の認知度を高める取組みを進める。				
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県文化奨励賞の表彰件数【当該年度3月時点】	目標値		2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	件	単年度値
		実績値	2.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・本県文化振興への貢献が期待できる活動を行っているものを平成2年度から毎年1~2名表彰しており、令和元年度までに59個人・団体が受賞。								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・受賞について新聞等でも報道され、文化奨励賞の存在や受賞団体の活動を周知することができた。
課題分析	① 課題	・表彰対象者として推薦される件数が減少している。
	② 原因	・次世代の活動等を十分に把握できていない。 ・表彰制度の周知が十分にできていない。
	③ 方向性	・新聞・情報誌・TVなどからも情報収集に努め、文化団体や若手人材等の活動を把握していく。 ・県の広報媒体等も活用して受賞者・団体の活動を紹介するなど、賞の認知度を高める取組みを進める。 ・市町村・団体等に引き続き積極的な推薦を働きかける。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		芸術・文化の情報発信・収集事業			
目的	誰(何)を対象として	市町村、文化団体、文化施設、県民等	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	文化団体の財政基盤や情報基盤を強化するとともに、県民に文化情報を提供し、県内の芸術文化事業の育成を図る		10,558	10,139
			うち一般財源 (千円)	0	0
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・国等の芸術文化に対する助成情報等を収集し、速やかに、かつ確認しやすい形で、市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に直接提供する。 ・助成を希望する事案について、市町村等から情報提供を受け、申請の可否、内容等の相談に乗る。 ・各種助成事業の活用状況(申請・採択件数等)を情報提供するなど、今後の取組の参考にしてもらい、助成事業の有効活用に努める。 				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	なし				
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	(一財)地域創造ほか主要助成金等への県内申請件数【当該年度4月～3月】	目標値		43.0	43.0	43.0	43.0	43.0	件	単年度 値
		実績値	38.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・国等の助成情報等は、市町村、文化団体、文化施設等の関係機関に直接提供している。 ・地域創造の助成金申請は、平成22年度以降、毎年度、平均4件程度の申請がある。 ・様々な助成事業を活用し、芸術文化に関わる人材や団体の育成・支援の取組が行われている。(H31申請実績～自治総合センター:2件、日本芸術文化振興会:4件、エネルギー文化・スポーツ財団:24件ほか) 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各種助成事業に関する情報を市町村や文化団体等に周知することで、中山間地域や離島等も含めた県内各地で文化・芸術的な活動が実施され、県民が芸術文化を鑑賞し、自ら参加する機会が増加している。 ・県民が生の芸術文化に触れることで、より興味・関心を高め、自主的・創造的な活動に繋がっている。
課題分析	① 課題	なし
	② 原因	なし
	③ 方向性	なし

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		県立美術館事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び来館者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	美術に対する県民の興味や関心が高まる地域の文化交流や観光の拠点として賑わいを創出する		409,039	413,277
今年度の取組内容	・平成11年3月に開館した県立美術館において、企画展・コレクション展の実施、教育普及活動、調査研究等の美術館活動を実施し、県民の文化活動に資するとともに、県内外からの集客が図られるよう展示内容や企画展関連イベントの工夫、情報発信の強化などに取り組む。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	対象者をこれまでの「県民」から、県外からの「来館者」も含めて関わりの範囲を広げた。また、目指す状態についても文化芸術を核として地域や県内外からの来館者の賑わい創出へと発展を持たせた。				
1	上位の施策	Ⅵ-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	Ⅳ-1-(2) 地域で活躍する人づくり
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県立美術館入館者数【当該年度4月～3月】※R3年度は施設整備の予定	目標値		250,000.0	20,000.0	250,000.0	250,000.0	250,000.0	人	単年度値
		実績値	268,616.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<p>・お客様へのアンケート結果によれば、入館者の内訳は、全体としては50代から60代の割合が高く、50歳以上の方が大半を占めている。女性の割合が高い状況は変わらないが、企画展の内容によっては、例年よりも若い世代(30代から40代)の割合が高いものが見られた。</p> <p>・平成25年から始めた「かぞくの時間」の取組や、「ファミリーデー」「ミュージアムフェスティバル」などのイベントに加え、リニューアルでキッズライブラリー等を整備したことにより、若年層や子ども連れの来館を呼び込んできている。</p> <p>・外国人は平成28年度に初めて1,000人を超えたところであるが、2,000人までのところで推移している。</p>								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<p>・年度末には新型コロナウイルスの影響を受けながらも、目標を3万人近く上回る来館者数を得た。</p> <p>・指定管理者も含め、美術館全体として展示やイベント等を企画・実施することができ、県民に、より身近な美術館として認識してもらったことができた。</p> <p>・コレクション展観覧者数の増加に向けて、美術館NEWSやSNSでの告知強化を図り、新規観覧者の獲得に一定の効果を果たした。大きな入り込みにはつなげられていない。</p> <p>・オンラインでのプレスリリース配信システムの活用により、web媒体での情報発信件数は大幅に増加している。</p>
課題分析	① 課題	<p>・集客が企画展の内容に大きく左右される。</p> <p>・企画展が開催されていない期間の集客が低調である。</p> <p>・美術品等の展示・保存にとって重要な照明設備や常に適切な温度・湿度管理ができる空調設備等の環境を整えるため、適切な維持管理に努めているが、空調等については、緊急修繕の機会も増加している。</p> <p>・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からの年度末の主催事業や関連イベントの中止、ギャラリーのキャンセルなどにより集客に影響が生じている。</p>
	② 原因	<p>・予算の制約がある中で、多くの誘客が可能となる企画展を継続的に開催することが難しい。</p> <p>・コレクション展の展示内容の工夫を図っているが、認知度が乏しい。</p> <p>・開館後の年数経過で、美術館自体の目新しさ、来館に繋がるきっかけが少なくなっている。観光等を意識した企画が十分にされていない。</p> <p>・経年による施設設備等の性能劣化や老朽化が進んでいる。</p>
	③ 方向性	<p>・平成30年度から展覧事業と教育普及事業の予算をまとめて「企画展総合事業」としたことも踏まえ、学芸員が研究や専門性を発揮したうえで、観光や予算を意識した企画ができるよう、今後も引き続き、研修や指定管理者等との企画会議を充実させる。指定管理者も含めた美術館に関わる者が、美術館トータル運営を考え、連携・協力して展示・イベント等を企画・実施し、常に改善を図る。</p> <p>・来館者の安全・快適性を確保できる施設・設備管理を実施するため、管財課や営繕課、指定管理者と連携し、計画的に修繕や設備の更新等を行う。</p>

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		芸術文化センター事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び来館者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	文化芸術に対する県民の関心が高まる地域の交流や文化芸術を中心とした賑わいの拠点となる		419,582	490,884
			うち一般財源 (千円)	184,249	203,235
今年度の取組内容	平成17年10月に開館した芸術文化センターにおいて、優れた芸術文化を提供し、地域住民及び観光客等の集客が図られるよう、複合施設としての特色も活かしながら様々な事業を実施する。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	対象者をこれまでの「県民」から、県外からの「来館者」も含めて関わりの範囲を広げた。また目指す状態についても文化芸術を核として地域や来館者の賑わい創出へと発展を持たせた。				
1	上位の施策	Ⅵ-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	Ⅳ-1-(2) 地域で活躍する人づくり
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	芸術文化センター入館者数【当該年度4月～3月】※R3～4年度は施設整備の予定	目標値		350,000.0	210,000.0	70,000.0	350,000.0	350,000.0	人	単年度値
		実績値	368,334.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・センター全体の入館者数は、目標に対して105%の達成率であり、過去6番目に多い入館者数であった。 ・美術館では企画展を4本開催し、入館者目標への全体の達成率は、99%となっている。 ・指定管理者により、鑑賞事業11本、育成事業7本、創造事業3本、文化芸術活動支援6本の文化事業を実施した。(新型コロナウイルスの影響による中止:鑑賞1,育成2) ・ボランティア団体と協働して運営を実施した。 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館では、令和元年度の企画展4本で34,108名の観覧があった。このうち富野由悠季の世界展については、図録が全国の公立美術館が加盟する美術館連絡協議会の優秀カタログ賞を受賞した。これにより開館から14年の間の受賞回数は6回となった。また、萩・石見空港対策で実施した特別ツアーや、地元飲食店と連携したプレゼント企画、劇場との複合施設である強みを生かしたライブイベントを開催し、一部のイベントは新型コロナウイルスの影響で中止となったものの、地域と一体となって全国にグラントワをPRする機会となった。 ・芸術劇場では、「フランチャイズ芸術団体育成」の活動10周年を記念した合同コンサートを実施した。ジャンルの異なるコラボレーションを団体が自ら運営することで、自主的な活動の成長が見られた。
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・入館者数が企画展や公演の内容に大きく左右される。 ・修繕が必要な場所や設備等がかなり多く、また修繕規模も大きくなっている。計画修繕だけでなく、利用者の苦情も増えている空調設備などを中心に緊急修繕も増加する見込みである。このため、今後の入館者数や利用者の満足度の維持に懸念がある。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からの年度末の主催事業や関連イベントの中止、ホール利用のキャンセルなどで集客に影響が生じている。
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算の中で、集客が多く見込める企画展を継続的に開催することが難しくなっている。 ・広島・山口からの集客には取組みの効果がみられるが、首都圏からの集客は限定的。 ・開館から14年が経過し、施設、設備の性能劣化や老朽化が進行している。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展の開催回数や質を維持するために、事業の効率化や基金の効果的な活用方法を引き続き検討していく。幅広い年代にアピールできる企画展開催を念頭に、指定管理者と連携し、観覧者の増加につながるPR方法・関連イベント等を工夫していく。また、観光部局、地域振興部局、その他関係機関と連携し、広島・山口だけでなく、首都圏からの集客も意識した積極的・広域的な企画や広報活動を展開する。 ・来館者の安全・快適性を確保できる施設・設備管理を実施するため、管財課や営繕課、指定管理者と連携し、計画的に修繕や設備の更新等を行う。

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

文化国際課

事務事業の名称		島根県民会館事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び文化芸術団体など	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	幅広い文化芸術活動と優れた文化芸術鑑賞の機会が得られる		248,745	263,660
			うち一般財源 (千円)	105,299	109,489
今年度の取組内容	・文化事業 鑑賞事業(館内)劇団四季公演、名画劇場ほか(館外)地域ステージ、しまね映画祭ほか 育成事業(館内)ステージクリエイター次世代育成ほか (館外)アウトリーモデル事業、文化芸術による子どもの育成事業ほか 創造事業(館内)インクルーシブ・シアター・プロジェクトほか (館外)しまね映画塾ほか ・文化芸術活動支援 ・広報・利用促進 ・利用者サービス向上				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	文化芸術活動の担い手不足解消のため、鑑賞機会の確保やワークショップの実施等による次世代育成への支援を行うこと				
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県民会館大・中ホール利用者数【当該年度4月～3月】	目標値		170,000.0	170,000.0	170,000.0	170,000.0	170,000.0	人	単年度値
		実績値	135,170.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2	県民会館入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		450,000.0	450,000.0	450,000.0	450,000.0	450,000.0	人	単年度値
		実績値	423,066.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・指定管理者により、公演やアウトリー方式の育成事業等の文化事業を47事業実施した。 ・視覚障がいを持たれた方がダンスワークショップを通じてダンス公演に参加する等、社会包摂的な取組の充実を図った。								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	県民ニーズをふまえ、コンサートや演劇、落語など様々なジャンルの公演を企画するとともに、伝統芸能をはじめとした地域の特色ある文化芸術活動を発信する取組み、次世代を担う子どもたちや障がいを持たれた方に、文化芸術に親しむ機会を提供するといった社会包摂を目指した取組みを積極的に実施した。
課題分析	① 課題	・ホールの利用率が60%程度 ・地域ステージ等の観客数の伸び悩み ・文化芸術活動の担い手不足 ・新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からの年度末の主催事業の中止やホール・会議室利用のキャンセルなどにより集客に影響が生じている。
	② 原因	・施設の老朽化、舞台装置等の経年による陳腐化 ・人口減少、文化芸術活動の担い手の高齢化
	③ 方向性	・照明や吊り物等、舞台設備の計画的な改修や、充実した音響設備や客席とステージが近いことによる良さを生かした企画の検討 ・館内のバリアフリー化による高齢者、障がい者等が利用しやすい環境を整備 ・鑑賞機会の確保やワークショップの実施等による次世代育成への支援

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

社会教育課

事務事業の名称		青少年文化活動推進事業			
目的	誰(何)を対象として	児童・生徒	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	「豊かな心」を育むとともに、次代の文化活動の担い手を育成する。		8,777	8,818
			うち一般財源 (千円)	8,777	8,818
今年度の取組内容		<ul style="list-style-type: none"> ・高校の文化部活動を活性化するため、島根県高等学校文化連盟(県高文連)に対し支援を行う。 ・全国大会に出場する部活動の激励や、全国規模の大会等で入賞した児童・生徒を顕彰する。 ・文化庁や文化団体の各種事業を活用し、児童・生徒に対して優れた文化芸術に親しむ機会を提供する。 			
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと		<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、児童・生徒が実施する文化活動への支援や、優れた文化芸術に親しむ機会を提供する。 			
1	上位の施策	VI-2-(2) 文化芸術の振興	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	高校における生徒の文化部活動への参加率(県高文連加盟校)【当該年度4月～3月】	目標値		30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	%	単年度値
		実績値	29.6							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
2	青少年芸術文化表彰及び青少年児童生徒学芸顕彰の被表彰団体(個人)件数(R2年度からの累計)【当該年度3月末時点】	目標値		70.0	140.0	210.0	280.0	350.0	件数	累計値
		実績値	95.0							
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> ・全体の高校生生徒数が減少傾向 H29:5,534人/18,271人⇒ H30:5,470人/18,271人⇒ R1:5,308人/17,902人【県高文連加盟校における参加率】 H29:30.3%、H30:30.0%、R1:29.6% ・青少年芸術文化表彰(知事表彰)・青少年児童生徒学芸顕彰(教育長顕彰)件数【知事表彰】 R1:第1期 2団体 1個人 第2期 なし【教育長顕彰】 R1:第1期 13団体 11個人 2指導者 第2期 2団体 64個人 								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が進む中においても、高校生の文化部活動参加率は、横ばい傾向を維持している。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大により各種発表会等が中止となり、新しい発表の方法が検討されている状況。 ・全国大会に出場する児童・生徒激励候補者数は、横ばい傾向を維持している。
課題分析	① 課題	・高校生の文化部活動への参加率を維持していくための発表の機会が限られ、文化部活動の魅力が県民に十分に伝わっていない。
	② 原因	・島根県高等学校文化連盟(県高文連)に対する支援が、効果的な内容になっていない。
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の文化活動活性化のための、効率的な支援方法(補助要綱等)について検討する。 ・作品や発表会の様子をWeb上にアップすることを検討する。